

平成30年度 学校法人静岡理工科大学 静岡北中学校 自己評価・学校関係者評価

どのような学校を目指すのか		将来のScienceとSocietyを牽引できる存在感と思慮深さを持った人材の育成				<h2 style="text-align: center;">学校関係者評価</h2> <p>※評価は、以下の基準に従い、各項目ごとに5段階で客観的に評価してください。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 20px;">5</td> <td style="width: 20px;">:</td> <td style="width: 50px;">最も良好</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>:</td> <td>ほぼ良好</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>:</td> <td>普通</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>:</td> <td>やや不良</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>:</td> <td>不良</td> </tr> </table>							5	:	最も良好	4	:	ほぼ良好	3	:	普通	2	:	やや不良	1	:	不良
5	:	最も良好																									
4	:	ほぼ良好																									
3	:	普通																									
2	:	やや不良																									
1	:	不良																									
基本方針		将来、科学技術に夢と希望をもち、創造性豊かな人材育成の基礎をつくる																									
昨年度の成果と課題		本年度重点目標		本年度重点施策		達成状況																					
多くの生徒が中高一貫教育の6年間で科学教育に対する認識を深め、将来科学に関係する世界に進みたいと考えている現状を向うことができ、生徒や保護者の期待に応えるための様々な取り組みが大方展開できたものと判断される。小規模な学校なので、教職員が情報を共有化し、目標に向かって一丸となって、学習指導・生徒指導、更には家庭との連携を密にした結果、よい成果が上がっているものと判断される。		【入口目標】 ◎目標生徒数を獲得する。 【中身目標】 ◎法人内学校との連携強化を図る。 ◎時代が求める教育を展開する。 【出口目標】 ◎評価される進路実績を作る。		◎学校案内等の紙媒体で本校の魅力や教育内容をわかりやすく伝える。 ◎法人のメリットを生かし、教育活動に取り入れる。 ◎ディープ・アクティブ・ラーニングを意識した授業を行う。 ◎質の高い授業・講座を実施する。同時にカリキュラム・マネジメントを推す。		目標達成 目標達成 目標達成																					
		評価項目		具体的目標		具体的方策		自己評価		成果・次年度への主な課題		学校関係者評価					平均										
								評価	平均			評議員A	評議員B	評議員C	評議員D	同窓会	地域住民	教育関係者									
		学校経営		従来から行っている21世紀型スキルを育成する教育を継続するとともに、様々な知識を応用し、自分なりの解を表現できる能力育成に発展させることで、成果を残せる人材育成を行う。		CASE（ケース）及び言語技術プログラムを中心に、21世紀型スキルを育成する教育を展開した。 時代が求めるグローバル教育・ICT教育・ディープ・アクティブラーニングの実践等）を展開することで、多くの知識を結び付け、自分なりの解を他者に示せる教育も展開した。		3	3.0	高校側との連携をさらに強化し、2020年の大学入試改革にむけた能力開発を、中学段階から積極的に推し進めていく。		3	3	4	4	4	3	4	3.6								
教育課程・学習指導		中高間における情報交換の機会を増やし、6年間でどのような生徒育成をしていくかについて意見交換をしていく。また、高等学校において理数科・国際C科の中核となって活躍する生徒を多く進学させる。		中高間における情報交換の中で生徒育成に関する話し合いが行われ、共通した課題について、意見交換が行われた。 理数科、国際C科への進学が昨年度より増加したことで、両学科の核として活躍できる人材を育成することができた。		3	3.0	内進生が高校で活躍したニュース等の情報をいち早く取り入れ、ホームページやシズキタアプリ等のツールを活用してタイムリーに情報発信をする。また、課題となるような点に関して、高校側からの情報を受け、中学部会等で解決策を見出す。		3	3	3	3	3	3	3	3.0										
生徒指導		個々の生徒の日常的な変化を、教職員間で共有し、適切な対応について情報を交換し指導に当たる。また、保護者からの情報も集め、適切な指導の方法を考えていく。		生徒一人一人の日常生活を観察し、保護者からの情報を集めながら、担任学年主任が連携し、様々な事象への対応を行った。 ICTリテラシー教育講座を実施することで、SNSによるトラブルを未然に防ぐ方法など、保護者、本人への教育も行った。		3	3.0	学校生活における様々なトラブル等を、学校側と保護者の協力を得て、解決していくとともに、研修等を通じて困難な生徒に対する対応をすべての教職員が把握できる体制を整える。		3	3	3	4	4	3	3	3.3										
進路指導		基礎学力がしっかりと身についた生徒として、静岡北高校の理数科・国際C科の中核となり活躍できる生徒を進学させる。		授業や対策セミナーを通して、学力の定着をはかることで、静岡北高校の理数科・国際C科で中核として活躍できる生徒の育成に努めた。		3	3.0	生徒一人ひとりの適性をふまえ、理数科又は国際C科に入学できるような進路指導を展開する。また、両学科において、確実に学習できる基礎学力を確実に身につけられる。さらに、100%静岡北高に進学するようにする。		3	3	3	3	3	3	3	3.0										
安全管理		法人全体で構築されたシステムを、安否確認だけでなく、日々の連絡にどの程度まで活用していくか検討していく。		防災訓練で安否システムを活用した訓練を度々行った。 保護者への連絡手段として、学校からの急な連絡や行事等において、安否システムを使用し一斉メールを流すことで伝達することができた。		3	3.0	日頃から防災教育を行うことで、生徒への安全に対する意識付けを行う。また全教職員、スクールバスの運転手も含めて、災害が起きたときのシミュレーションを把握し、共有できるようにする。		3	3	4	4	3	3	3	3.3										
保健管理		個々の生徒の健康面・精神面での教職員間での情報共有は継続して行い、突発的な出来事に対応する体制づくりを継続して行う。 また、部活動顧問との連携を取り、生徒が活動しやすい体制を作る。		生徒の健康管理は、保健室、各学年部で情報を共有し、保護者とも連携し対応した。 部活動を行っている生徒についても個人個人の体調管理及び精神的なサポート等を顧問・保健室と連携を取りながら進めていくことができた。		3	3.0	生徒のメンタルケアについては、早期段階で、スクールカウンセラーや生徒相談の担当教員・保護者・保健室・担任等が情報を共有し、生徒が安心して学校生活を送れるような環境を整えていく。また引き続き部活動などで生徒の体力面・精神面等バックアップできる体制を構築する。		3	3	3	4	4	4	3	3.4										
特色ある教育		iPadの導入により、各教科内で、或いは日々の学校経営の中で、どのような活用方法が効果的であるかを実践・検証し、次年度につなげる。		各教員が、iPadを導入した授業を積極的に取り入れ、授業を展開することで、タブレットを活用した授業展開について、個々の教員が課題を見つけることができた。 電子黒板を利用した映像や音声等様々なジャンルの授業も展開できるようなICT教育にも力を入れることができた。		3	3.0	電子黒板やiPadを活用した授業の在り方を、全教員で検証すると共に、生徒に一台持たせるスタイルを検討する。また特別支援教育の一環として通級制度を設けており、公立中学とも連携し、支援の必要がある生徒に対し、きめ細かな教育を実施する。		3	3	4	4	4	3	3	3.4										
組織運営		平成29年度の実績の中で、第三次中期計画の軌道修正をかけながら、教職員一丸となって、目標達成に向けて業務遂行をする体制を作る。		ICT教育に向けた事業計画は計画は進んでいるものの、個々の生徒が所持するまでの段階に入っていない。 校舎建築計画についても、具体的な計画に入っていない。		3	3.0	第3次中期計画3年目に入るが、語学教育をさらに発展していく上で、法人内各校と連携した教育を展開していく。さらに海外での語学研修及びオールイングリッシュ授業を検討していく。また、校内研究授業を増やすことで、個々のスキルアップをめざす。		3	3	3	3	3	3	3	3.0										
研修		次年度も継続して、高校と共にディープ・アクティブラーニングの研修に取り組み、中学校における取組がどのような形でできるかを実践・研究していく。		授業内容の深まりを意識し、授業の中にグループ討議時間を積極的に取り入れたことで、個々の生徒の授業に対するモチベーションをあげることができた。 中学に關係する先生方で、ディープ・アクティブラーニングの研修に取組んだ。		3	3.0	引き続きディープ・アクティブラーニングの研修を継続して行い、徐々にスキルを高めていく。また個人で参加した研修報告会を行うことで、研修内容の共有化を図る。		3	3	4	4	3	3	3	3.3										
保護者、地域住民との連携		学習面・生活面において、学校だけの指導では、中々解決できないことが多いので、保護者・地域との連携のもとに、生徒たちの成長を支援する。		SSZの活動においては、地域住民にアンケート調査を継続して行い、活動の意見をとりまとめることができた。 生徒会で町内の清掃活動を行い、地域住民とふれあうことができた。保護者の会の役員会で今後の学校方針に対する意見交換を行うことができた。		3	3.0	生徒会を中心に、今後も地域の奉仕活動等を行うことで、静岡北中学校に対する評価をあげるよう努める。また保護者参観会等を通じて、学習面・生活面について情報交換を行う。		3	3	3	3	3	3	3	3.0										
施設設備		各教科で、どの時期にどのような学習内容で、タブレットを使うことが効果的であるかについて実践・研究する。		電子黒板の差し替えとiPadを導入し、各教科で効果的な活用方法に関する研究を進めることができた。 遮光カーテンを取付けることで、電子黒板やプロジェクターを使うのに、より良い環境にすることができた。 エアコン等の温度設定及び使用に対してルールを新たに作成した。		3	3.0	教育環境・施設設備の改修工事をすすめていく。具体的には電子ピアノの導入、電子黒板、トイレの便器(温水洗浄便座付き)取替工事等を行う。また長期にわたる保守点検について計画を作成する。		3	3	3	3	3	3	3	3.0										
						平均	3.0									3.2											

学校関係者評価委員のコメント

- 定員60名に対し67名の入学生を獲得できたことは十分評価できる。学校として、個別相談機会の拡充やHPの頻繁な更新、さらにはシズキタアプリの導入等で情報提供の機会の増進させたこと、また教職員の連携による成果だと判断する。
- 次年度も学校説明会やイベントに多数参加できる体制を整え、定員を目標に、充実した教育環境づくりを継続していただきたい。また、インターネット出願の仕組みについて、次年度ではより情報周知の徹底を図る手立てを工夫することが求められる。
- 法人内の日本語学院との交流授業を実施し、他国の文化への理解、英語によるコミュニケーションの場を、積極的に日常に授業に反映させたことは評価に値する。また、法人全体研修を通じて、法人内連携を強める環境になった点も高く評価したい。
- 現在、法人内学校との交流授業は日本語学院に在籍している外国人留学生だけにとどまっているが、高等教育機関と連携し、さらにジャンルを広げてマナーやデザイン、パソコン、理科実験等の分野等での取り組みを期待したい。
- iPadを関係教員用と生徒用33台導入し、ICT教育がさらに活性化したと判断される。また、各教室の電子黒板もうまく活用した授業展開の工夫もされている。加えて、ディープ・アクティブラーニングに関する研修も進めたことも評価される。
- 生徒の実態に即したICT機器の利用方法を引き続き研究しつつ、タブレット端末を活用した授業の中で、不十分と思われる課題を独自の教育スタイルを確立する。そして、個々の生徒にタブレットを持たせるための計画を考え、早期に実現する。
- 卒業生の80%を、静岡北高校の理数科に進学させることができた点は、評価される。（昨年74.5%、一昨年58%）また、国際コミュニケーション科、普通科に進学した生徒に対しても、適性と将来の希望を考えた進学指導ができています。
- 「理数科進学」という基本方針に対し、理数科を希望する上位層生徒のさらなる学力向上を図るとともに、下位層の基礎学力の向上にも期待を寄せる。
- 教育の特色であるCASE（ケース）と言語技術プログラムを中心に、21世紀型スキルを育成する教育を展開している。
- 高校側との連携をさらに強化し、2020年の大学入試改革にむけた能力開発を、中学段階から、更に積極的に推し進めていって欲しい。
- 中高間での情報交換の中で生徒育成に関する話し合いが行われ、共通課題について意見交換が十分に行われた。また理数科、国際C科への進学が昨年度より増加したことで、両学科の核として活躍できる人材を育成することができたものと評価する。
- 今後も、内進生が高校で活躍したニュース等の情報をいち早く取り入れ、ホームページやシズキタアプリ等のツールを活用してタイムリーに情報発信をすることに期待する。また、受けた情報で課題となるような点は、早期に検討すること。
- 生徒個々の日常生活に気を配り、保護者情報も参考にし学年部教員が連携してさまざまな事象への対応を行った。またICTリテラシー教育講座を実施したことで、SNSによるトラブルを未然に防ぐ方法について、保護者、生徒への啓発も行えている。
- 理数科又は国際C科に入学できるような進路指導を展開するとともに、両学科において、確実に学習できる基礎学力を確実に身につける教育を行う。さらに、100%静岡北高に進学するように望む。
- 学校からの緊急の連絡や行事等において、保護者への連絡手段として、安否システムを使用し一斉メールを流すことで伝達することができたことは、危機管理に繋がる。
- 日頃から防災教育を行うことで、生徒への安全に対する意識を高めていって欲しい。また全教職員、スクールバスの運転手も含めて、災害が起きたときのシミュレーションを共有していくことは必要である。
- 生徒の健康管理は、保健室、各学年部で情報を共有し、保護者とも連携し良く対応していると判断した。また部活動生徒に関しては、個々の体調管理及び精神的なサポート等を顧問・保健室と連携を取れているようである。
- 生徒のメンタルケアについては、早期にスクールカウンセラーや生徒相談の担当教員・保護者・保健室・担任等が情報を共有し、生徒が安心して学校生活を送れるような環境を整えていく体制をより一層強めていただきたい。
- iPadを導入し積極的に授業を展開したため、個々の教員がICT教育に課題を見つけることができた点を評価する。さらに電子黒板を利用した映像や音楽等を活用した授業も展開できるようなICT教育にも力を入れることができた。
- 授業内容の深まりを意識して、授業中にグループ討議時間を積極的に取り入れ、個々の生徒の授業に対するモチベーションをあげることができているようである。
- 引き続きディープ・アクティブラーニングの研修を継続していくことで、その分野での教師スキルを徐々に高めていくことに期待します。
- SSZの活動においては、地域住民に対するアンケート調査や、生徒会で町内の清掃活動を実施し、地域住民とふれあうことができた。更には、保護者の会の役員会で、今後の学校方針に対する意見交換を行うことができた。
- 生徒会を中心に地域の奉仕活動を行っているようだが、さらに生徒の公共心育成と静岡北中学校に対する評価をあげるよう努めることを望む。
- 電子黒板の差し替えとiPadの導入で、各教科で効果的な活用方法に関する研究を進めることができた。
- 引き続き、教育環境・施設設備の改修工事をすすめていく。そのために長期にわたる保守点検について計画を作成することを提案する。